

〈研究ノート〉

## 現代口語ビルマ語のAspect表現について

岡野 賢二

### 1. はじめに

本稿は現代口語ビルマ語<sup>1,2</sup> (以下「ビルマ語」) Aspect表現データについてミャンマー出身のニッカーキン (Hnit Oo Khin; 以下「H氏」と表記) 氏とインインメイ (Yin Yin May; 以下「Y氏」) 氏の2名に対して行った聞き取り調査によって採集されたデータを元にした記述である。<sup>3</sup>

本稿を読み進めるため、ビルマ語の文構造、述語構造について簡単に述べておく。ビルマ語の語順は述語末尾型で、主語や目的語、時や場所の句、従属節などの文構成要素は主節の述語に先行する。文の必須要素は述語のみである。ビルマ語の文には大きく動詞述語文と非動詞述語文の二種類がある。動詞文は「動詞+動詞文標識 (verb sentence marker; vs. と表記)」という構造の動詞述語を持つ文であり (第3節を参照)、非動詞文はそれ以外の文である。

### 2. 調査結果

主としてH氏の結果を記すが、Y氏の回答が異なっている場合には例文の右行端に「[! ]」をつけて示す。例文には一部Y氏のみ回答をしてもらったものもあるので、それは例文日本語訳にその旨を記してある。

例文に出てくるMMは男性の人名 (マウンマウン Maung Maung /màunmàun/) のことである。

<sup>1</sup> ビルマ語はチベット=ビルマ語派、ロロ=ビルマ語支に属する言語で、ミャンマー連邦の事実上の公用語である。母語話者数は3500万人以上、使用地域は同連邦内に限られる。

<sup>2</sup> 本稿の音声表記は以下の通り：頭子音 (阻害音) p-, p<sup>h</sup>-, b-, t-, t<sup>h</sup>-, d-, t-(d-); s-, s<sup>h</sup>-, z-, c-, c<sup>h</sup>-, j-, k-, k<sup>h</sup>-, g- (共鳴音) m-, hm-; n-, hn-; ɲ-, hɲ-; ɲ-, hɲ-; l-, hl-; y-, hy- [ç]; w, hw- [mw] (その他) h-, ʔ-, f-, r- : 母音 (単母音) -i, -e, -ɛ, -a, -ɔ, -o, -u (二重母音) -ai, -au, -ei, -ou (軽声) -ä : 末子音-ʔ, -N : 声調 (低平調) -à (高平調) -á (下降調) -â. 頭子音の規則的有声化については有声化記号 (◌̚) で示した。

<sup>3</sup> Hnit Oo Khin 氏 (43歳・女性・在日歴20年; Hと表記) は旧首都ヤンゴン (Yangon) 出身のビルマ族。Yin Yin May 氏 (50歳・女性・在日歴10年; Yと表記) はビルマ族はない (パラウン族) が、第二の都市マンダレーで幼少の頃から一貫してビルマ語での教育を受け、ミャンマーの外国語大学で日本語学科の教員としてビルマ人に対する日本語教育に長年携わってきた実績がある。そのため母語話者と同等のビルマ語運用能力を持っていると判断される。いずれも日本語が極めて堪能であり、今回の聞き取り調査は日本語で行った。

(1) MM はもう来た。

- a. MM **yau?-pi.**  
[PSN] 至る=vs.INC
- a'. MM **yau?-là=pi.**  
[PSN] 至る-来る=vs.INC
- a''. ?? MM **yau?-nè=pi.** [!]  
[PSN] 至る-いる=vs.INC
- b. \* MM **là=pi.** [!]  
[PSN] 来る=vs.INC
- b'. \* MM **là-nè=pi.**  
[PSN] 来る-いる=vs.INC

動詞 **yau?**-「至る」もしくは **là**-「来る」と動詞文標識 (vs.) **-pi**《活写》を用いる。H 氏、Y 氏とも a. を答えた。a'. もよいが、Y 氏は「結果として『もう来た』の意」と回答。補助動詞 **nè**-「～ている」(本動詞として「いる、とどまる」)を用いた a''. については Y 氏は「到着してここにいる」の意で完全に容認可能だが、H 氏は「非常に不自然」と回答。b. は Y 氏は容認可能、H 氏は容認不可能と判断が完全に分かれた。b. は例文 (6) の意味で使われる文でもある。b'. は両氏とも「こちらに向かっている途中」という意味だと回答。

(2) MM は、もう来ている。

- a. MM **yau?-nè=pi.**  
[PSN] 至る-いる=vs.INC
- a'. ?\* MM **yau?-là-nè=pi.**  
[PSN] 至る-来る-いる=vs.INC
- b. \* MM **là-nè=pi.**  
[PSN] 来る-いる=vs.INC

a. の **yau?**-「至る」+ **nè**-「～ている」+ **-pi**《活写》がもっとも自然。(1)a'. に対応する(2)a'. は両氏ともほぼ容認できない。b. は(1)b'. に同じ。

(3) MM は、まだ来ていない。

a. ?? MM **mǎ-yau?=té=p<sup>h</sup>ú.**

[PSN] *not*-至る=[まだ]=vs.NEG

cf. MM **mǎ-yau?=té=p<sup>h</sup>ú=lá**

[PSN] *not*-至る=[まだ]=vs.NEG=Q

MM はまだ来ていないか？

b. MM **mǎ-là=té=p<sup>h</sup>ú.**

[PSN] *not*-来る=[まだ]=vs.NEG

c. ?? MM **yau?-mǎ-là=té=p<sup>h</sup>ú.**

[PSN] 至る-*not*-来る-いる=[まだ]=vs.NEG

[?]

「まだ V ない」は否定動詞 *mǎ*-V+助動詞 *té* 《事態継続》(+動詞文標識 *p<sup>h</sup>ú* 《否定叙実・叙想》)。ここでは b. *là*-「来る」が最も自然。a. *yau?*-「至る」は H 氏が非常に不自然だと回答。動詞連続 *yau?-mǎ-là*- (至る+否定+来る) も Y 氏が完全に容認可能なのに対し H 氏は容認可能だが「現代的 (もしくは少数民族的) な言葉遣い」と回答。なお a. は cf. のように疑問文だと自然であるという。

(4) MM は、まだ来ない。

a. ?? MM **mǎ-yau?=té=p<sup>h</sup>ú.**

[PSN] *not*-至る=[まだ]=vs.NEG

cf. MM **mǎ-yau?=té=p<sup>h</sup>ú=lá**

[PSN] *not*-至る=[まだ]=vs.NEG=Q

MM はまだ来ないか？

b. MM **mǎ-là=té=p<sup>h</sup>ú.**

[PSN] *not*-来る=[まだ]=vs.NEG

c. ?? MM **yau?-mǎ-là=té=p<sup>h</sup>ú.**

[PSN] 至る-*not*-来る=[まだ]=vs.NEG

[?]

両氏の回答は(3)とほとんど同じで、b. *là*-「来る」が自然。

(5) MM は、もう (すぐ) 来る。<sup>4</sup>

- a. MM (măcàgìn) yau?-tṣ=mè.  
[PSN] (間もなく) 至る-[もう]=vs.IRL
- b. \*? MM (măcàgìn) là-tṣ=mè. [!]  
[PSN] (間もなく) 来る-[もう]=vs.IRL
- c. MM (măcàgìn) yau?-k'hà ní=pi.  
[PSN] (間もなく) 至る-時 近い=vs.INC

助動詞-tṣ《局面変化》+動詞文標識-mè《叙想》を用いる (a., b.) か、c. V-k'hà ní=pi 「V する時が近い；まもなく V する」を用いる。c. は一種の複合的な述語表現と言える。V と名詞?āk'hà 「時」が複合して名詞となり、それが動詞 ní- 「近い」の補語となっている。

(6) (あっ,) MM が来た。

- a. hó, (hò=hmà) MM yau?-pi. [!]  
[間] (there=LOC) [PSN] 至る=vs.INC
- b. hó, (hò=hmà) MM là=pi.  
[間] (there=LOC) [PSN] 来る=vs.INC

動詞文標識-pi 《活写》は動作の開始時点に言及する。話し手の行為の場合は「今すぐ始める」、会話参加者以外の行為の場合は「V しているのに話し手が気づいた」という意味になる。a., b. とも述語部分 (yau?-pi. と là=pi.) を繰り返すことがある。

(7) おととい、MM が来たよ。<sup>5</sup>

- a. tǎnê=kâ MM là-twá=tè.  
一昨日=PAST [PSN] 来る-行く=vs.RLS
- b. tǎnê=kâ MM là=tè.  
一昨日=PAST [PSN] 来る=vs.RLS

<sup>4</sup> 「もう (すぐ)」の表現として例文中の “măcàgìn” 「間もなく」の他に “k'hânâ nè=yin” 「少し経ったら」も回答にあったが、特にこれによる違いはないため、前者に統一してある。

<sup>5</sup> Y 氏は「おととい」に “tǎmyànnê(=kâ)” という語彙を用いた。両氏に確認したところ、“tǎnê(=kâ)” “tǎmyànnê(=kâ)” いずれも同じだということなので、本文では “tǎnê(=kâ)” に統一した。

b'.? tǎnê=kâ MM là=k<sup>h</sup>ê=tê.  
 一昨日=PAST [PSN] 来る=DIST⇒vs.RLS

動詞連続 là-twá-「来る-行く」+動詞文標識-tê《叙実》が最も自然で「(来て) 帰った」まで含む (a). b.は「帰った」を含意しない. 過去を明示的に表すとされる助動詞-k<sup>h</sup>ê<sup>6</sup>を用いた b'.は文語的<sup>7</sup>で不自然ということである.

(8) おととい, MM は来なかったよ.

- a. tǎnê=kâ MM mǎ-là=p<sup>h</sup>ú.  
 一昨日=PAST [PSN] not-来る⇒vs.NEG
- a'.? tǎnê=kâ MM mǎ-là=k<sup>h</sup>ê=p<sup>h</sup>ú.  
 一昨日=PAST [PSN] not-来る=DIST⇒vs.NEG
- cf. tǎnê=kâ s<sup>h</sup>ǎyà-nê mǎ-twê=k<sup>h</sup>ê=p<sup>h</sup>ú=lá.  
 一昨日=PAST [先生]=COM not-会う=DIST⇒vs.NEG=Q  
 おととい, 先生に会わなかったか?

過去を明示的に表す助動詞-k<sup>h</sup>êを用いた a'.はやはり文語的で会話では不自然. cf.のように疑問文では不自然ではない.

(9) (私は) あのリンゴをもう食べた.

- a. cǎmâ ?é-dì=pánđí(=kò) sá-pí=pì.<sup>8</sup>  
 [1f] その=リンゴ(=ACC) 食べる-終わる⇒vs.INC
- b.? cǎmâ ?é-dì=pánđí(=kò) sá-pí-twá=pì.  
 [1f] その=リンゴ(=ACC) 食べる-終わる-行く⇒vs.INC
- c. cǎmâ ?é-dì=pánđí(=kò) sá=lai?pì. [Y氏]  
 [1f] その=リンゴ(=ACC) 食べる=[適時]⇒vs.INC

「Vし終わる」は補助動詞-pí「～し終わる」(本動詞として「終わる」)+-pì《活写》を用いる. H氏は補助動詞-twá「～てしまう」(本動詞として「行く」)を用いる b.を

<sup>6</sup> 報告者は-k<sup>h</sup>êの本質的な意味は「言及時の時空間からの離脱」ではないかと考えている.

<sup>7</sup> ビルマ語には書記専用で発話されることが基本的にない文語と, 話し言葉の口語とがある.

<sup>8</sup> ?é-dì=「その」は?é-《前方照応》+dì=《近称》である.

「文学的」と回答. なお Y 氏は助動詞-lai?《適時》の現れる c.も回答 (H 氏は未確認).

(10) 私はあのリンゴをまだ食べていない.

- |    |      |                  |                               |     |
|----|------|------------------|-------------------------------|-----|
| a. | cămâ | ʔé-dì=pándí(=kò) | mă-sá=p <sup>h</sup> ú.       | [!] |
|    | [1f] | その=リンゴ(=ACC)     | not-食べる=vs.NEG                |     |
| b. | cămâ | ʔé-dì=pándí(=kò) | mă-sá=té=p <sup>h</sup> ú.    |     |
|    | [1f] | その=リンゴ(=ACC)     | not-食べる=[まだ]=vs.NEG           |     |
| c. | cămâ | ʔé-dì=pándí(=kò) | mă-sá=yá=té=p <sup>h</sup> ú. |     |
|    | [1f] | その=リンゴ(=ACC)     | not-食べる=inev=[まだ]=vs.NEG      |     |

「まだ V ない」は否定動詞 mă-V+助動詞《不可避》+助動詞《事態継続》c.が最もよい (H 氏『まだ食べていない人はいる?』の質問に対する返答として『私はまだです』の意味). b.は「私は要らない」というニュアンス.

(10\*) 私はあのリンゴをまだ食べない. (Y 氏のみ)

- |       |      |                  |                            |
|-------|------|------------------|----------------------------|
| a. ?? | cămâ | ʔé-dì=pándí(=kò) | mă-sá=p <sup>h</sup> ú.    |
|       | [1f] | その=リンゴ(=ACC)     | not-食べる=vs.NEG             |
| b.    | cămâ | ʔé-dì=pándí(=kò) | mă-sá=té=p <sup>h</sup> ú. |
|       | [1f] | その=リンゴ(=ACC)     | not-食べる-[まだ]=vs.NEG        |

a.は(10)a.と同じ文で「まだ」の意味がない.

(11) MM は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています.

- |      |      |                      |                                |                              |
|------|------|----------------------|--------------------------------|------------------------------|
| a.   | cămâ | (ʔăk <sup>h</sup> ú) | ʔé-dì=pándí(=kò)               | sá-nè=tè.                    |
|      | [1f] | (今)                  | その=リンゴ(=ACC)                   | 食べる-いる=vs.RLS                |
| b. ? | cămâ | (ʔăk <sup>h</sup> ú) | ʔé-dì=pándí(=kò)               | sá-nè=tóun(=pà).             |
|      | [1f] | (今)                  | その=リンゴ(=ACC)                   | 食べる-いる=[最中](=[寧])            |
| c. ? | cămâ | (ʔăk <sup>h</sup> ú) | ʔé-dì=pándí(=kò)               | sá-nè=ʂ <sup>h</sup> é(=pà). |
|      | [1f] | (今)                  | その=リンゴ(=ACC)                   | 食べる-いる=[最中](=[寧])            |
| cf.  | ʔămè | t <sup>h</sup> ámín  | c <sup>h</sup> εʔ-nè=tóun(=pé) | (hyî=té=tè).                 |
|      | [母]  | ごはん                  | 料理する-いる=[最中](=[焦])             | (ある=[まだ]=vs.RLS)             |
- 母は今ちょうどごはんを作っている最中/頃だ.

日本語の「～ている」に相当するのが-nè (本動詞として「いる, とどまる」). V-nè + -toun / -shé 「最中」も使われる (b.と c.) 文語的. ただし cf.のような文は十分に容認可能である.

(11') MM は今 (ちょうど) そのリンゴを食べているところです. (Y 氏のみ)

- |    |      |                      |                  |                  |
|----|------|----------------------|------------------|------------------|
| a. | cămâ | (ʔăk <sup>h</sup> û) | ʔé-dì=pándí(=kò) | sá-nè=tè.        |
|    | [1f] | (今)                  | そのリンゴ(=ACC)      | 食べる-いる=vs.RLS    |
| b. | cămâ | (ʔăk <sup>h</sup> û) | ʔé-dì=pándí(=kò) | sá-nè=tà.        |
|    | [1f] | (今)                  | そのリンゴ(=ACC)      | 食べる-いる=nc.RLS    |
| c. | cămâ | (ʔăk <sup>h</sup> û) | ʔé-dì=pándí(=kò) | sá-nè=toun(=pà). |
|    | [1f] | (今)                  | そのリンゴ(=ACC)      | 食べる-いる=[最中](=寧)  |

b.が最も自然だが, a.と c.でもよい. b.は動詞文標識 (vs.) が名詞化した名詞節標識 (nc.) で, 日本語の「のだ文」に近い構造・意味を持つ.

(12) 窓が開いている. /開いていた.

- |      |                   |                 |
|------|-------------------|-----------------|
| a.   | bădínbau?         | pwîn-nè=tè.     |
|      | 窓                 | ひらく-いる=vs.RLS   |
| b. * | bădínbau?         | pwîn=tè.        |
|      | 窓                 | ひらく=vs.RLS      |
| cf.  | gângò             | pwîn(-nè)=tè.   |
|      | セイロンテツボク          | ひらく(-いる)=vs.RLS |
|      | セイロンテツボクの花が開いている. |                 |

補助動詞-nèが必要. しかし cf.のように現れないでもいい場合がある. 「開いていた」の意味でも使う (Y 氏のみ回答).

(13) 私は毎朝新聞を読む/読んでいます.

- |      |      |            |         |                          |
|------|------|------------|---------|--------------------------|
| a.   | cămâ | măne?-táin | ďădínzà | p <sup>h</sup> a?=tè.    |
|      | [1f] | 朝-～毎       | 新聞      | 読む=vs.RLS                |
| b. * | cămâ | măne?-táin | ďădínzà | p <sup>h</sup> a?-nè=tè. |
|      | [1f] | 朝-～毎       | 新聞      | 読む-いる=vs.RLS             |

b'. cǎmâ ʔǎk<sup>h</sup>û mǎnɛʔ-táin dǎdínzà p<sup>h</sup>aʔ-nè=tɛ̃.  
 [1f] 今 朝～毎 新聞 読む-いる<sub>VS.RLS</sub>

私は今、毎朝新聞を読んでいる。

c. cǎmâ mǎnɛʔ-táin dǎdínzà p<sup>h</sup>aʔ-lê hyí=tɛ̃.  
 [1f] 朝～毎 新聞 読む-[習慣] ある<sub>VS.RLS</sub>

私は毎朝新聞を読む習慣がある。

補助動詞-nèを用いる b. は不適格。動作動詞の場合 a. のように動詞文標識-tɛ̃《叙実法》によって習慣的なアスペクトを表す。補助動詞-nèが生起する b. 文は「発話時現在で進行している動作」(Y 氏) であるという。しかし以下のように補助動詞-nèが使われる場合もある。これは Y 氏によれば「半永続的な習慣ではなく、一時的に短期間行っている場合」に言うことができるということであった。b' のように ʔǎk<sup>h</sup>û 「今」という語があると、一時的であるという解釈が成り立つため、適格文となるのも同じ理由であろう。b' は「100%毎日」の意味ということであった。

なお c. は V-lê hyí- 「V する習慣がある」という構文。ただし「毎日ではないという含み」があるという (Y 氏)。

cf. cǎmâ nê-táin ʔintànɛʔ cí(-nè)=tɛ̃.  
 [1f] 日～毎 インターネット 見る(-いる)<sub>VS.RLS</sub>

私は毎日インターネットを見る／見ている。

cǎmâ nê-táin kòriyá-zaʔlân (sâun-)-cí(-nè)=tɛ̃.  
 [1f] 日～毎 韓国ドラマ (待つ-)見る(-居る)<sub>VS.RLS</sub>

私は毎日韓国ドラマを(待ち望んで)見ている。

(14) あなたは(あなたの)お母さんに似ている。

a. hyìn (hyîn=)ʔǎmè-nê tû=tɛ̃.<sup>9</sup>  
 [2f] ((2f')母=COM 同じ<sub>VS.RLS</sub>

b. \* hyìn (hyîn=)ʔǎmè-nê tû-nè=tɛ̃.  
 [2f] ((2f')母=COM 同じ-いる<sub>VS.RLS</sub>

<sup>9</sup> 動詞 s<sup>h</sup>in- 「似る」を使っても同じ。



- cf. MM pyûzû=tê sàdán=kâ cǎnò 2007-k<sup>h</sup>ûhni?=tóun=kâ  
 [PSN] 編集する=attr.RLS 論文=NOM [1m] 2007-年-[期間]=PAST  
 pyûzû=tê sàdán=nê (twá-)tù-nè=tê.  
 編集する=attr.RLS 論文=COM (行く-)同じ-いる=vs.RLS  
 MM が執筆した論文は、私が 2007 年に執筆した論文と (たまたま) 似ていた。
- cf. ?ǎme-p<sup>h</sup>ε?=kâ ?ǎmyó-twè=nê twá-tù-nè=tê.  
 [母]-~方=ABL 親類-plrl=COM 行く-同じ-いる=vs.RLS  
 [よく見たら/意外にも] 母方の親類に似ていた。

状態動詞の場合、通常補助動詞-nèは用いられない (a, b). ただし cf. のように用いられることもある。

(15) 私はその頃毎日学校へ通っていた。(used to V)

- a. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun twá=tê.  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 行く=vs.RLS
- a'. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun twá=k<sup>h</sup>ê=tê.  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 行く=dist+vs.RLS
- b. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun yau?=tê. [!]  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 至る=vs.RLS
- b'. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun yau?=k<sup>h</sup>ê=tê. [!]  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 至る=dist+vs.RLS
- c. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun te?=tê.  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 のぼる=vs.RLS
- c'. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun te?=k<sup>h</sup>ê=tê.  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 のぼる=dist+vs.RLS
- d. ??? cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin cáun twá-lê hyî=tê.  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 学校 行く-習慣 ある=vs.RLS
- cf. cǎmâ ?é-dì=tóun=kâ nê-táin lǎp<sup>h</sup>ε?yè-š<sup>h</sup>ain wìn-lê hyî=tê.  
 [1f] その=[期間]=PAST 日-~毎 喫茶店 入る-習慣 ある=vs.RLS  
 私はその頃、毎日喫茶店に入っていた。

a.は twá-「行く」、b.は yau?-「至る」、c.は te?-「のぼる」で、a.と b.とでは意味的に

あまり差はないようだ (Y 氏は b. *yau?*-「至る」のみ容認不可). c.は「通う」の意味なので学生であることを含意する. いずれも過去の習慣的な行為について動詞文標識 *-tè* 《叙実法》を用いて表す (a., b., c.). 助動詞 *kʰɛ*があると「その時だけ」(H 氏) という解釈になる (a', b', c'). d. *V-lê hyî*-「V する習慣がある」は, 通学・通勤など義務的なことに使うは不自然. *cf.*の「喫茶店に寄る」ような場合は自然である.

(16) 私はインレーに行ったことがある.

- a. *cāmâ ʔínlé(=kò) tʰwá=pʰú=tè.*  
 [1f] [PLN](=ALL) 行く=[経験]=vs.RLS
- b. *cāmâ ʔínlé(=kò) yau?=pʰú=tè.*  
 [1f] [PLN](=ALL) 至る=DIST-[経験]=vs.RLS

助動詞 *-pʰú* 《経験》「～したことがある」を用いる. a., b.とも自然.

(17) やつとバスは走り出した.

- a. *ʔākʰú=hmâ=pé baʔsāká (sâ-)tʰweʔ=tš=tè.* [!]  
 今=*only.if*[焦] バス (始まる-)出る=[もう]=vs.RLS
- b. *ʔākʰú=hmâ=pé baʔsāká (sâ-)tʰweʔ=pì.*  
 今=*only.if*[焦] バス (始まる-)出る=vs.INC
- c. \* *ʔākʰú=hmâ=pé baʔsāká (sâ-)tʰweʔ=tš=pì.*  
 今=*only.if*[焦] バス (始まる-)出る=[もう]=vs.INC

「やつと～した」は助動詞 *-tš* 《局面変化》+動詞文標識 *-tè* 《叙実》もしくは単に動詞+動詞文標識 *-pì* 《活写》という (ただし H 氏は a.は容認不可). 助動詞 *-tš*は動詞文標識 *-pì*とともに用いられない.<sup>10</sup> 前接動詞の *sâ*-「～し始める」(本動詞としては「始まる; 始める」) はあってもなくてもよい.

(18) きのうあの娘は一日中寝ていた.

- a. *mănê=kâ kàunmâlé dauʔhyauʔ ʔeiʔ-nè=tè.* [!]  
 昨日=PAST 娘 ずっと 寝る-いる=vs.RLS

<sup>10</sup> 古くは *V=tš=pì*という用法があったが, 現在では廃れてしまったという.

- a'. mǎnê=ḵâ kàunmálé dau?hyau? ?ei?-nè=k<sup>h</sup>ê=tè. [?]  
 昨日=PAST 娘 ずっと 寝る-いる=DIST=vs.RLS
- b. ? mǎnê=ḵâ kàunmálé tǎ-nê-ḵòun ?ei?-nè=tè.  
 昨日=PAST 娘 一日中 寝る-いる=vs.RLS

tǎ-nê-ḵòun 「一日中」という表現は不自然で, dau?hyau? 「ずっと続けて」が自然 (Y氏はb.が自然と回答). 時間を表す語と-k<sup>h</sup>êが共起すると不自然であるのかも知れない.

(19) 私はそれをちょっと食べてみた.

- cǎmâ ?é-dà(=ḵò) néné sá-cí=tè.  
 [1f] それ(=ACC) 少し 食べる-見る=vs.RLS

試行「V してみる」を表すのは補助動詞-cí「～てみる」(本動詞として「見る」).

(20) あの人はそれ(ら)をみんなに分け与えた.

- ?é-di=lù(=ḵâ) ?é-dà(-tḵwè)=ḵò ?álon=ḵò k<sup>h</sup>wé-pé(=lai?)=tè.  
 その=人(=NOM) それ(-plrl)=ACC みんな=ACC 分ける-与える(=[適時])=vs.RLS

多回性を表す特別な形式はないようだ. Y氏は助動詞=lai?《適時》がある方が自然だと回答した (H氏未確認).

(21) さあ, (私たちは) 行くよ!

- a. ké, (cǎmâ-tô) tḵwá(=çâ)(=pà)=sò=ø.  
 [問] ([1f]-plrl) 行く(=PL)(=[寧])=[勧誘]=vs.IMP
- b. ké, (cǎmâ-tô) tḵwá(=çâ)=yâ?àun(=pà).  
 [問] ([1f]-plrl) 行く(=PL)=([勧誘])(=[寧])
- c. ké, (cǎmâ-tô) tḵwá(=çâ)=mè(=lè).  
 [問] ([1f]-plrl) 行く(=PL)=vs.IRL(=[高圧])

勧誘表現には V(=câ)=sòと V(=câ)=yâ?àun がある.<sup>11</sup> この二つの構文的違いはsòが動

<sup>11</sup> 主語項(動作者)の複数を表す助動詞=câが現れると, cǎmâ-tô「私たち」の指示対象に聞き手以外の人物

詞文標識=ø《命令》があると考えられるのに対し、=yâ?àun にはそれがないことである。これは助詞=pà《丁寧》の位置で判別できる。動詞述語では述語内に現れ、非動詞述語では述語の後に現れる。<sup>12</sup>

また=sôは発話直後の行為についてのみ述べることができるが、=yâ?àun にはそのような制限はない。<sup>13</sup>

- (21) a". ké, (cǎmâ-tô) ?ǎk<sup>h</sup>û/\*mǎnɛ?p<sup>h</sup>ǎn/\*tǎnɛnɛ twá(=çâ)=pà=sô=ø.  
 [間] ([1f]-plr) 今/明日/いつか 行く(=PL)(=寧)[勧誘]=vs.IMP
- b". ké, (cǎmâ-tô) ?ǎk<sup>h</sup>û/\*mǎnɛ?p<sup>h</sup>ǎn/tǎnɛnɛ twá(=çâ)=yâ?àun=pà.  
 [間] ([1f]-plr) 今/明日/いつか 行く(=PL)[勧誘]=[寧]

c.は単に動詞文標識=mè《叙想》のみであるが、「我々はこれから行く」と宣言して聞き手の行動を規定してしまう言語表現である。

(22) 地球は太陽の周りを回っている。[恒常的な真理]

- a. gǎbà-çí=kâ nɛ-lóun-çí=kò pa?-tè. [恒常的な真理]  
 地球-AUG=NOM 太陽-丸い-AUG=ACC 回る=vs.RLS
- b. gǎbà-çí=kâ nɛ-lóun-çí=kò pa?-nɛ=tè. [「目の前で（動いている）図を見せながら」]  
 地球-AUG=NOM 太陽-丸い-AUG=ACC 回る-居る=vs.RLS

恒常的な真理の場合、補助動詞-nɛは用いられない。ただし目の前で動いている図や模型を見せながら発話する場合は、逆に-nɛがある方が自然である。

が存在することを論理的に含意する。

<sup>12</sup> これ以外に=sôを使った文では否定で動詞文標識=nɛ《否定命令》が現れ得るが、=yâ?àun には否定の形式がないことが挙げられる。

e.g. nau?h'a? mǎ-twɛ=çâ=sô=nɛ=lá. 「もう二度と会わないようにしようじゃないか。」

再び not-会う=PL[勧誘]=vs.PROH+Q

(Okell & Allott 2001 p.56)

ただ報告者の調査の範囲では=sôが否定文に現れる実際の用例は見つかっていない。

<sup>13</sup> この現象は=sôの文に動詞文標識=ø《肯定命令》が存在していることを示唆していると思われる。なお=yâ?àun は助動詞=yâ《不可避》+従属節標識=?àun《目標》「~するように」であり、これが独立した複合的述語形式となったものである。ビルマ語では従属節内に動詞文標識は現れない。

(23) あの木は今にも倒れそうだ。[将然相]

a. di=ti?pìn=kâ ?ăk<sup>h</sup>û lé=t̚ɔ̃=mê pòun.

この=木=NOM 今 倒れる=[もう]=attr.IRL 姿

cf. cèdí pyou?-t<sup>h</sup>wε?=t̚ɔ̃=mè.

ボタン とれる-出る=[もう]=vs.IRL

ボタンが取れそうだ。

将然相は助動詞=t̚ɔ̃《局面変化》+限定節標識=mê《叙想》+名詞 pòun「姿」という複合的表現となる。

(24) (私は) あやうく転ぶところだった。[未実現の事態]

a. (cāmâ) lé=t̚ɔ̃=mă=lò p<sup>h</sup>yi?-t̚wá=t̚è.

([1f]) 倒れる=[もう]=attr.ILS=ESS 生じる-行く=vs.RLS

b. ? (cāmâ) c<sup>h</sup>ó-lé=t̚ɔ̃=mă=lò p<sup>h</sup>yi?-t̚wá=t̚è.

([1f]) 滑る-倒れる=[もう]=attr.IRL=ESS 生じる-行く=vs.RLS

c. (cāmâ) c<sup>h</sup>ó-c<sup>h</sup>â=t̚ɔ̃=mă=lò p<sup>h</sup>yi?-t̚wá=t̚è.

([1f]) 滑る-落とす=[もう]=attr.IRL=ESS 生じる-行く=vs.RLS

d. (cāmâ) k<sup>h</sup>älou?-tai?=mî=mă=lò p<sup>h</sup>yi?-t̚wá=t̚è.

([1f]) 躓く=[無意識]=attr.ILS=ESS 生じる-行く=vs.RLS

助動詞=t̚ɔ̃《局面変化》+限定節標識=mă《叙想》+格助詞=lò《様態》p<sup>h</sup>yi?(-t̚wá)-「なってしまう」を用いる。

(25) 明日お客が来るので、ケーキを買っておく。[準備]

ne?p<sup>h</sup>yìngà ?êđè là=hmà=mô(=lò) kei?mòun wè-t<sup>h</sup>á=mè.

明日 客 来る=nc.IRL=[理由](=[理由]) ケーキ 買う-置く=vs.IRL

補助動詞-t<sup>h</sup>á「～ておく、～である」(本動詞として「置く」)を用いる。

(26) (私は) ボーゾー市場に行った時、この袋を買った。

a. ??? (cāmâ) sākô-zé t̚wá=t̚óun=kâ di=?ei?(=kò) wè=k<sup>h</sup>ê=t̚è.

([1f]) [NAME]-市場 行く-[期間]=PAST この=袋(=ACC) 買う=DIST=vs.RLS

- a'. (cāmā) sākō-zé t̄wá=t̄óun=k̄â dī=?ei?(=kò) wè=k̄<sup>h</sup>ê=t̄à.  
 ([1f]) [NAME]-市場 行く-[期間]=PAST この袋(=ACC) 買う=DIST=nc.RLS
- b. (cāmā) sākō-zé t̄wá=t̄ō dī=?ei?(=kò) wè=k̄<sup>h</sup>ê=t̄è.  
 ([1f]) [NAME]-市場 行く-[場面] この袋(=ACC) 買う=DIST=vs.RLS

(27) (私は) ボーチョー市場に行く時, この袋を買った.

- a. (cāmā) sākō-zé t̄wá=t̄óun=k̄â dī=?ei?(=kò) wè=k̄<sup>h</sup>ê=t̄à.  
 ([1f]) [NAME]-市場 行く-[期間]=PAST この袋(=ACC) 買う=DIST=nc.RLS
- b. (cāmā) sākō-zé t̄wá=t̄ê=?āk<sup>h</sup>à dī=?ei?(=kò) wè=k̄<sup>h</sup>ê=t̄à.  
 ([1f]) [NAME]-市場 行く-attr.RLS=とき この袋(=ACC) 買う=DIST=nc.RLS

(27') (私は) ボーチョー市場に行く前に, この袋を買った.

- a. (cāmā) sākō-zé m̄ā-t̄wá-k̄<sup>h</sup>in(=k̄â) dī=?ei?(=kò) wè=k̄<sup>h</sup>ê=t̄à.  
 ([1f]) [NAME]-市場 not-行く-[以前](=PAST) この袋(=ACC) 買う=DIST=nc.RLS
- b. (cāmā) sākō-zé m̄ā-yau?-k̄<sup>h</sup>in(=k̄â) dī=?ei?(=kò) wè=k̄<sup>h</sup>ê=t̄à.  
 ([1f]) [NAME]-市場 not-至る-[以前](=PAST) この袋(=ACC) 買う=DIST=nc.RLS

(28) (私は) 彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた.

- a. t̄ù zé-t̄<sup>h</sup>é=hmà dī=?ei?(=kò) wè=t̄à (cāmā) t̄i=lai?=t̄è.  
 [3] 市場~中=LOC この袋(=ACC) 買う=nc.RLS ([1f]) 知る=[適時]=vs.RLS
- b. t̄ù zé-t̄<sup>h</sup>é=hmà dī=?ei?(=kò) wè=t̄à (cāmā) t̄i=k̄<sup>h</sup>ê=t̄è.  
 [3] 市場~中=LOC この袋(=ACC) 買う=nc.RLS ([1f]) 知る=DIST=vs.RLS

助動詞-k<sup>h</sup>êが生起すると文語的であり, 口語としては不自然.

### 3. 補足 : ビルマ語の動詞述部構造とアスペクト表現

ビルマ語の動詞述部構造とアスペクト表現について, 補足的に概略しておく. ビルマ語の動詞述部は前述の通り「動詞+動詞文標識」という基本構造を持つ. 動詞文標識は法の対立も表している. 現代口語ビルマ語の動詞文標識には以下のようなものがある.

表 : 現代ビルマ語の動詞文標識

文タイプ	非要求文					要求文
	叙実	叙想	活写	(疑念)	(急迫)	
肯定	=t̄è	=m̄è	=p̄i	=ȳê	=ȳó	=ø
否定	=p̄ <sup>h</sup> ú		—			=n̄ê

上で見たように動詞文標識は、そのみ、もしくは他の表現との組み合わせによりアスペク的な意味を表す機能の一部を担っている。

ビルマ語の動詞述語は「動詞+動詞文標識」にさまざまな要素が付加され、拡張される。その一つが助動詞で、一般に動詞文標識の前に現れる。<sup>14</sup> アスペクトに関わる助動詞では $\text{t}^{\text{é}}$ , = $\text{?óun}$  《事態継続》, = $\text{t}^{\text{ó}}$  《局面変化》, = $\text{lai?}$  《適時》, = $\text{k}^{\text{é}}$  《過去》などがある。

また動詞連続構文がAspect表現に関わることもある。本動詞の前に現れる生産的な要素と後ろに現れる生産的な要素（本稿では補助動詞と呼んでいる）がある。

#### (29) 動詞連続のAspect的前項動詞

- $\text{s}^{\text{á}}$ - 「～し始める」 (<始まる)
- $\text{s}^{\text{h}^{\text{e}}?}$ - 「続けて～；～し続ける」 (<つながる)
- $\text{t}^{\text{h}^{\text{a}}?}$ - 「もう一度～」 (<重ねる)
- $\text{py}^{\text{àn}}$ - 「また～；～し返す」 (<返す；帰る)

#### (30) 動詞連続のAspectの後項動詞（補助動詞）

- $\text{n}^{\text{è}}$ - 「～ている」 (<居る)
- $\text{t}^{\text{h}^{\text{á}}}$ - 「～ておく；～てある」 (<置く)
- $\text{c}^{\text{i}}$ - 「～てみる」 (<見る)
- $\text{py}^{\text{àn}}$ - 「またしても～」 (<返す；帰る)
- $\text{t}^{\text{w}^{\text{á}}}$ - 「～ていく；(完全に)～てしまう」 (<行く)
- $\text{l}^{\text{à}}$ - 「～てくる」 (<来る)

このような動詞述部構造内に現れる要素ばかりでなく、限定節が形式名詞を限定する形や、形式名詞が主要部となり動詞述部と複合した形が非動詞述語となるような複合的な述語表現などがAspect表現として用いられていることは前節に例示した通りである。

### 略号等

ACC (格助詞・対格), ALL (格助詞・向格), *attr*.IRL (限定節標識・叙想), *attr*.RLS (限定節標識・叙実), AUG (名詞接尾辞・指大辞), COM (格助詞・共格), DIST (助動詞《過去》), ESS (格助詞・様態格), LOC (格助詞・所格), [NAME] (固有名), *nc*.IRL (名詞節標識・叙想), *nc*.RLS (名詞節標識・叙実), NOM (格助詞・

<sup>14</sup> 助動詞のうち $\text{t}^{\text{é}}$ , = $\text{?óun}$  《事態継続》, = $\text{t}^{\text{ó}}$  《局面変化》のみ命令文で動詞文標識より後ろに現れる。

主格), *not* (否定接辞), PAST (格助詞・過去時), *PL* (助動詞・主語項(動作者)の複数性), [PLN] (地名), *plri* (名詞接尾辞《複数》), [PSN] (人名), *vs.IMP* (動詞文標識・肯定命令), *vs.INC* (動詞文標識・活写), *vs.IRL* (動詞文標識・肯定叙想), *vs.NEG* (動詞文標識・否定叙実叙想), *vs.PROH* (動詞文標識・否定命令), *vs.RLS* (動詞文標識・肯定叙実), [1f] (自称・女性用語), [1m] (自称・男性用語), [2f] (対称・女性用語), [3] (他称), [-'] (下降調化形), [母] (「母」で指示される特定の人物), [まだ] (助動詞《事態継続》), [もう] (助動詞《局面変化》), [経験] (助動詞《経験》), [以前] (名詞主要部「～以前」), [間] (間投詞), [勧誘] (助動詞《勧誘》), [期間] (名詞主要部「期間;頃」), [高圧] (文末助詞《高圧的》), [最中] (名詞主要部「最中」), [習慣] (名詞主要部「習慣;傾向」), [焦] (副助詞《焦点》), [適時] (助動詞《適時》), [寧] (助詞《丁寧》), [場面] (従属節標識《場面導入》), [理由] (従属節標識《理由》)

#### 参考文献

- 本行沙織.2009.「ビルマ語の助辞 *khê* の多義性の分析」. 大阪大学修士論文.
- 岡野賢二.2003.「現代口語ビルマ語の「行く・来る」」, 『東南アジア大陸部諸言語の「行く・来る」』 289-336. 慶應義塾大学言語文化研究所.
- \_\_\_\_\_.2007.『現代ビルマ(ミャンマー)語文法』, 国際語学社.
- \_\_\_\_\_.2009.「ビルマ語の文」, 『チベット=ビルマ系言語から見た文法現象の再構築 2: 文の特徴づけと下位分類』 第2回研究会(2009年12月6日)ハンドアウト.
- Okell, J. 1969. "A Reference Grammar of Colloquial Burmese", Oxford University Press.
- Okell, J. and Allott, A. 2001. "Burmese/Myanmar Dictionary of Grammatical Forms", Curzon Press.
- 大野徹.1983.『現代ビルマ語入門』, 泰流社.
- 澤田英夫.1998.『ビルマ語文法(2年次)』  
 (<http://www.aa.tufs.ac.jp/~sawadah/burtexts/burgram2.pdf>).
- \_\_\_\_\_.1999.『ビルマ語文法(2年次)』  
 (<http://www.aa.tufs.ac.jp/~sawadah/burtexts/burgram1.pdf>).
- 藪司郎.1992.「ビルマ語」. 『言語学大辞典』 第三巻 567-610, 三省堂.